

理財部会長報告

会議名 第1回理財部会（オープン部会）

日時 2025年6月6日（金）
13:30～15:00

場所 秋田商工会議所
7階 ホール80



出席者 理財部会員 12名、他部会員 12名 計 24名

懇談

テーマ 「トランプ2.0の企業を取り巻く経済環境の変化
～企業の永続・成長に向けた原材料・人件費上昇への対応策～」

ゲスト 野村證券(株)

営業企画部 兼 投資情報部 兼 ファイナンシャルウェルビーイング部
エグゼクティブ・ストラテジスト 東 英憲 氏

世界・米国・日本の近況

○世界

- 宇宙ビジネスの発展、低軌道衛星群による通信情報サービスの展開、衛星測位システムを活用した自動運転技術の進展などに着目が集まっており、更なるマーケットの拡大が予想される。

○米国

- 第1期トランプ政権で実施した国内の減税対応について、第2期同政権においては未着手であり、今後景気刺激策としての実施が予測される。
- 投資、生産拠点、人材が国外から集まり、エンジェル税制等によりベンチャーが絶えず拡大する環境が整備されている。

○日本

- 産業の空洞化、低い自給率、円安などにより、貿易赤字は過去最大級。債務残高についても主要国の中では突出している。
- 賃金が継続的に上昇し、企業のコスト増が顕著である。

トランプ関税による国内企業への影響

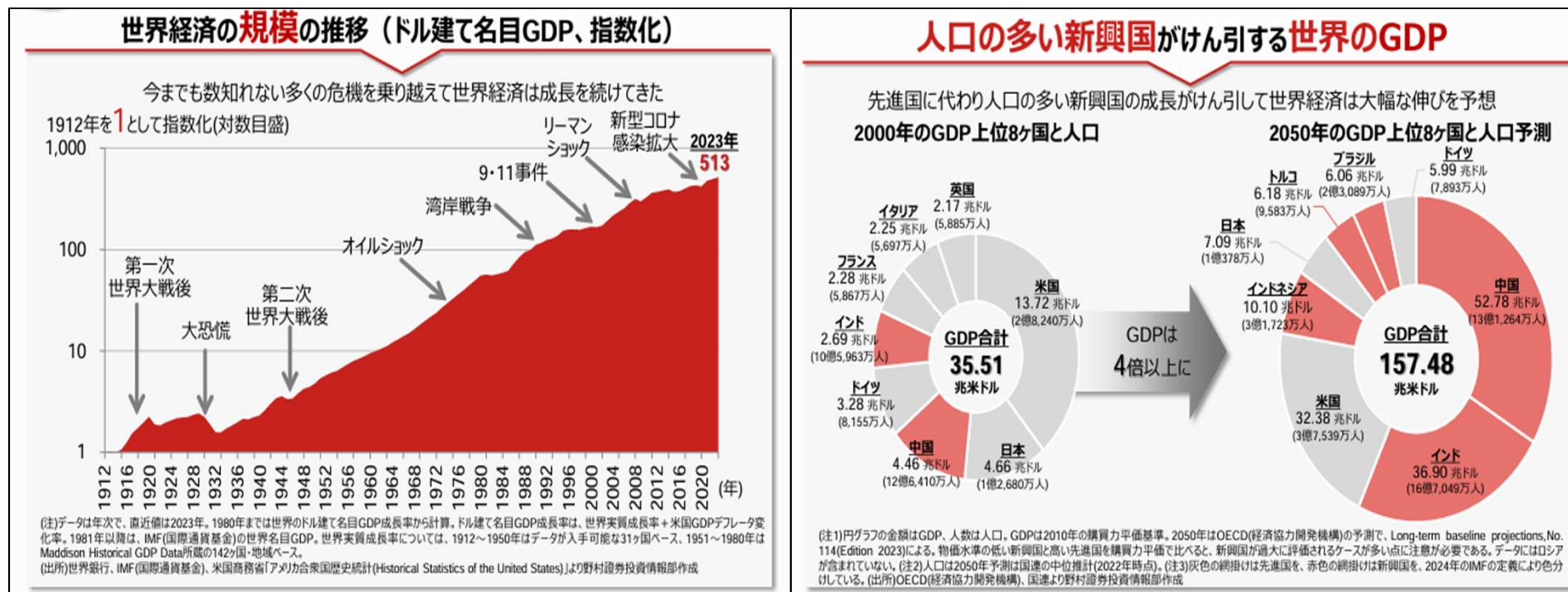
- 継続的な賃金上昇によるコスト増に加え、資源等の調達を輸入に頼っている国内企業にとって、**トランプ関税による輸入物価の上昇は更なる経営コスト増に繋がるため、価格転嫁が急務である。**
- 海外ではインフレが当たり前のようになり、**物価は既に日本の数倍**となっている。国内においてもインフレへの備えが必要である。

主要国の消費者物価上昇率				米国の物価は、すでに日本の 数倍			
	1971～ 2001年 30年 年率換算%	2001～ 2021年 20年 年率換算%	2021～ 2024年 3年 年率換算%		日本 円	米国 ドル 円(150円換算)	
日本	3.7	0.2	2.7	定食料理 (魚定食・ごはん・みそ汁)	平均 976	平均 35.38	平均 5,307
米国	5.0	2.2	5.0	麺料理 (人気ラーメン店・一杯)	平均 963	平均 23.65	平均 3,548
英国	7.2	2.1	6.3	駐在員用住宅借上料 (1LDK,1ベッドルーム・月額)	378,000	4,747	712,050
ドイツ	3.3	1.5	5.7	製造業賃金 (中間管理職クラス・月額)	617,088	12,965	1,944,750
フランス	5.7	1.5	4.6	(注)定食料理、及び麺料理は複数サンプルの平均値の比較(2024年)。 日米とも消費税相当額込み。米国はチップを20%として込みの金額。 日米の製造業賃金(中間管理職クラス)と、日米の駐在員用住宅借上料(日本は渋谷区広尾の単身向け1LDK、管理費なし、敷金・礼金要、米国はマンハッタン地区の集合住宅の1ベッドルームの平均)は、日本貿易振興機構(ジェトロ)「投資関連コスト」(調査実施時期：日本は2024年8月～10月、米国は2024年7月～8月)より。			
豪州	6.8	2.4	5.2	(出所)各種資料より野村證券投資情報部作成			
ロシア		8.7	9.1	(引用：講演資料)			
ウクライナ		11.0	12.8				
トルコ		12.3	62.2				

(注)2024年は予想値。図中の空欄はデータが取得できない期間。
 自国通貨ベース。小数点第二位を四捨五入。
 (出所)IMF(国際通貨基金)より野村證券投資情報部作成

世界経済の将来予測

- 第一次世界大戦以降、オイルショック、新型コロナの感染拡大など様々な危機があったが、**世界経済は直近の約100年間で500倍近くまで成長**している。
- トランプ関税の影響を危惧する声もあるが、スマートフォンなどITの普及による**人口の多い新興国の成長を背景に、今後も世界経済は成長していくと予測される。**



国内企業の経営継続・成長に向けた施策例

- 今後、**国内企業が永続・成長するための施策例**について、以下の4つを挙げる。

【施策①】

新規事業への着手：国外産業や次なる成長産業に自ら進出する
→世界に通用する技術、ビジネスモデルを要する

【施策②】

独自技術の磨上げ：独自技術により世界の企業と対等取引する
→特殊部品メーカーなど世界に通用する高レベルな技術を要する

【施策③】

淘汰を生き残る：M&A等により国内で残存者メリットを享受する
→淘汰を生き残るための体力を要する

【施策④】

出資・投資：成長企業への投資など保有資産を有効活用する
→自社の「お金にも働いてもらう」という発想・工夫を要する